

場所 静岡県駿東郡小山町

面積 3.2ha

活動目的 約4.4ha（但し、今回の申請範囲は、3.2ha）の樹林を「日立ハイテクサイエンスの森」と名づけ、地域社会の一員として「自然との共生」をめざし、かつて人々との暮らしと共にあった里山として再生することを目標としている。



サイト概要 (株)日立ハイテクサイエンス富士小山事業所（静岡県駿東郡）敷地内の緑地を、より豊かな生物多様性を育む森林となるように、整備と保全に取り組んでいる。取り組み内容は、1. 緑地の維持・再生、2. 人工林の自然林化、3. ススキ草地の再生、4. 外来植物の駆除である。この内、「2.人工林の自然林化」については、敷地内で採取したクヌギやコナラのどんぐりから育てた苗木に加え、エゴノキ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、イロハモミジ、ムラサキシキブといった在来種の樹木を混植し広葉樹林への転換を図っているが、成林に至るまでの過程において出現する、草地、低木林、若い雑木林などについても、それぞれの環境に適応した生物の生息地として捉えることとしている。「3.ススキ草地の再生」については、芝生地の一部を在来の植物が広がる半自然のススキ草地へ転換し維持管理をしている。JHEP更新認証を受け、最高ランクのAAA（トリプルエー）評価を取得している。

土地利用の変遷 今回の申請区域については、戦後は農地や林地（スギ・ヒノキ植林や広葉樹林）として利用されていたと考えられる。なお、申請区域からは外しているが、研究開発施設（1972年創設）については、過去の空中写真より、建設前は農地であったと考えられる。施設が創設された1972年以降は、申請区域における従来からの緑地管理に加え、2015年度から「日立ハイテクサイエンスの森」育林活動を上記の「サイト概要」に記載した取り組みのとおり開始し現在に至る。

サイト周辺の環境 近隣の他企業工場、高校、高速道路、スギ・ヒノキ人工林等に周辺を囲まれているが、申請区域とその東側は広葉樹林が比較的残されたエリアである。

アピールポイント

- ・ JHEP認証では、2015年の認証取得（AA+評価）から、2020年の更新認証で、より高い評価（AAA）へランクアップした。
- ・ 従業員も同好会（園芸・自然観察）活動等を通じて、森林の整備や保全に参画している。
- ・ インセクトホテル（2棟）を設置し、昆虫たちが暮らしやすい環境も整え、定期的に昆虫の利用状況を観察していく。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは、人工林から広葉樹林への転換ゾーン・芝生地からススキ草地への転換ゾーン等から構成され、モザイク状の土地利用がなされている。希少な植物の存在も確認されている。また、サイト周囲には、従来からの植生であるスギ・ヒノキをそのまま残す人工林も存在する。

【主な植生】

二次林（クヌギコナラ群集）、植林地（スギ・ヒノキ植林）、二次草原（アズマネザサーススキ群集）

【確認された主な動植物など】

・主な植物は以下のとおりであり、希少な植物の生育も確認された。

コナラ (*Quercus serrata*)、クヌギ (*Quercus acutissima*)、イロハモミジ (*Acer palmatum*)、エゴノキ (*Styrax japonicus*)、ムラサキシキブ (*Callicarpa japonica*)、ヤマザクラ (*Cerasus jamasakura*)、ヤマボウシ (*Cornus kousa*)、ススキ (*Miscanthus sinensis*)、スギ (*Cryptomeria japonica*)、ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) 等

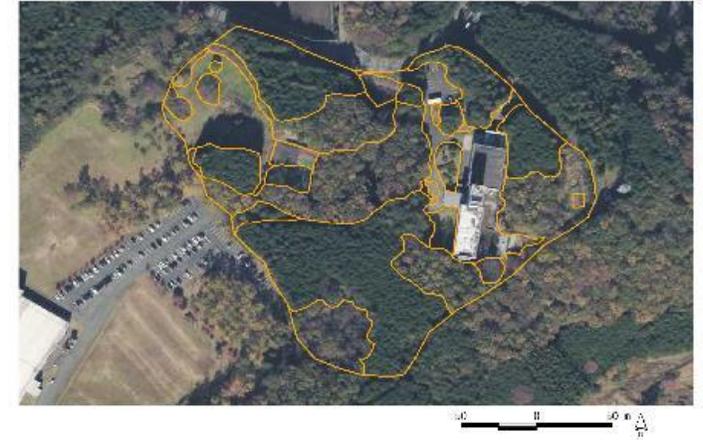
・ススキ草地では、アズマネザサーススキ群集に随伴して生育することがあるミツバツチグリ、オトコエシ、ゲンノショウコ、ナワシロイチゴなどが確認されている。

・JHEP認証に伴う植生調査時に、動物調査を目的としたものではないが次の昆虫・動物が目視確認されている。

2015/6/4現地調査：イチモンジチョウやモンキチョウ、アオダイショウなどが、フィールドサインでは、ニホンリスによるアカマツ球果の食痕やキュウシュウノウサギの糞。

2020/10/6現地調査：ニホンアマガエルやミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモンなど。

・また、(株)日立ハイテクサイエンスの従業員有志による自然観察同好会の観察では、対象サイト及びその近隣で、主として2020～2023年にかけて、哺乳類・鳥類29種、爬虫類・両生類6種、昆虫101種、クモ類・多足類12種が観察されている。



写真の説明：「日立ハイテクサイエンスの森」上空全景



写真の説明：ススキ草地

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

人工林から広葉樹林へ・芝生地からススキ草地への転換、インセクトホテルの設置、既存の森林の維持・管理等に取り組むことで、動植物がより生息しやすい多様のある森を50年をかけて育成する。取り組みの実施にあたっては、同好会（園芸・自然観察）活動等による従業員の参画により、自然との触れ合いを通じた心身の癒しの場所としての役割を持たせていく。森林によるCO2吸収で気候変動緩和にも貢献する。

【主な植生】

二次林（クヌギ・コナラ群集）、植林地（スギ・ヒノキ植林）、二次草原（アズマネザサ・ススキ群集）

【確認された主な動植物など】

- ・主な植物は以下のとおりであり、希少な植物の生育も確認された。
コナラ（*Quercus serrata*）、クヌギ（*Quercus acutissima*）、イロハモミジ（*Acer palmatum*）、エゴノキ（*Styrax japonicus*）、ムラサキシキブ（*Callicarpa japonica*）、ヤマザクラ（*Cerasus jamasakura*）、ヤマボウシ（*Cornus kousa*）、ススキ（*Miscanthus sinensis*）、スギ（*Cryptomeria japonica*）、ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*）、等
- ・ススキ草地では、アズマネザサ・ススキ群集に随伴して生育することがあるミツバツチグリ、オトコエシ、ゲンノショウコ、ナワシロイチゴなどが確認されている。
- ・JHEP認証に伴う植生調査時に、動物調査を目的としたものではないが次の昆虫・動物が目視確認されている。
2015/6/4現地調査：イチモンジチョウやモンキチョウ、アオダイショウなどが、フィールドサインでは、ニホンリスによるアカマツ球果の食痕やキュウシュウノウサギの糞。
2020/10/6現地調査：ニホンアマガエルやミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモンなど。
- ・また、（株）日立ハイテクサイエンスの従業員有志による自然観察同好会の観察では、対象サイト及びその近隣で、主として2020～2023年にかけて、哺乳類・鳥類29種、爬虫類・両生類6種、昆虫101種、クモ類・多足類12種が観察されている。



写真の説明：インセクトホテル



写真の説明：従業員による植栽活動

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

広葉樹林化ゾーン・ススキ草地ゾーン等で構成されるモザイク状の土地維持・管理がされている本サイトでは希少な植物の自生が確認されている。

【確認された希少種】

本サイトでは、環境省レッドリストに掲載されている絶滅危惧種・希少植物が確認されている。

本サイトの植樹活動が開始された2015年度には、目視によりサイト内の広葉樹林化ゾーン近くで確認されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>1.サイトの概要 (株)日立ハイテクサイエンス富士小山事業所(静岡県駿東郡)敷地内の緑地を、より豊かな生物多様性を育む森林となるように、整備と保全に取り組んでいる。</p> <p>2.サイトにおける活動目的 「自然との共生」をめざし、かつて人々との暮らしと共にあった里山として再生することを目標としている。(2015年から2065年までの約50年間計画)</p> <p>3.サイトにおける保全・利用等の活動</p> <p>3.1.申請サイトの区分種類 主に広葉樹林、半自然草地(ススキ草地)、スギ・ヒノキ人工林・芝生地に区分</p> <p>3.2.区分ごとの保全・利用方針及び活動内容</p> <p>3.2.1.広葉樹林ゾーン：草刈り等を実施し植樹した地域在来の植物を育てる。</p> <p>3.2.2.半自然草地(ススキ草地)ゾーン：維持管理・在来の昆虫類観察を行う。</p> <p>3.2.3.スギ・ヒノキ人工林ゾーン：現状のまま維持管理を継続する。</p> <p>3.2.4.芝生地等：現状のまま維持管理を継続する。</p> <p>4.脅威及び脅威に対する対策 外来植物の侵入に対して定期的な外来種駆除活動の実施</p> <p>5.活動の体制及び活動計画の点検・見直し</p> <p>5.1.活動の体制 (株)日立ハイテクサイエンスと(株)日立ハイテクが中心となり維持・管理を行う。JHEP認証及び森林育成全般について(公財)日本生態系協会の協力を仰ぐ。</p> <p>5.2.活動計画 長期計画に基づき、森林の成長具合もモニタリングし、単年度毎の計画を立てる。</p>	<p>【モニタリング対象】 植物</p> <p>【モニタリング場所】 「日立ハイテクサイエンスの森」全体を対象とする。</p> <p>【モニタリング手法】 植生調査</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 JHEP更新認証(5年毎に1回)の際に実施いただく。</p> <p>【モニタリング実施体制】 (公財)日本生態系協会によるモニタリングを実施いただく。</p>